

TPI NEXT による現場主導のテストプロセス改善を 支援するための手法の提案

高野 愛美 河野 哲也
株式会社日立製作所

山崎 崇
株式会社ベリサーブ

佐藤 徳尚
日本ナレッジ株式会社

{manami.takano.pj, tetsuya.kouno.cb}@hitachi.com takashi.yamasaki@veriserve.co.jp norihisa-sato@know-net.co.jp

要旨

本報告では、TPI NEXT[1]による現場主導のテストプロセス改善を進める際に現場のチームが陥りやすい問題に対して支援するための手法を提案する。TPI NEXT による現場主導のテストプロセス改善で陥りやすい2つの問題、1)チーム内で現状のテストプロセスを共通理解していないため、改善策の検討が難しい、2)改善項目が多く、優先順位の判断が難しい、に対して支援するための2つの手法、1)現状のテストプロセスを可視化するためのPFD[2]の活用、2)一定の指針による改善項目の絞り込みを提案する。また、現状のテストプロセスを可視化する対象を判定するために、TPI NEXT のチェックポイントがプロセス表現できるかどうかを整理した結果を報告する。

1. はじめに

近年、テストプロセス改善技術への関心が高まっており、導入する企業が増加している[3]。我々ソフトウェアテスト技術振興協会 テストプロセス改善研究会では、テストプロセス改善モデルである TPI NEXT を取り上げ、現場主導のテストプロセス改善を支援するための研究を行っている。

本報告では、TPI NEXT による現場主導のテストプロセス改善を進める際に陥りやすい問題を支援する手法を提案する。

2. TPI NEXT による現場主導のテストプロセス改善で陥りやすい問題

TPI NEXT は、現場主導で取り組みやすいテストプロセス改善モデルであるが、コンサルタントなどの支援を受けずに現場のチームだけで、テストプロセス改善に取り組む場合、スムーズに改善を進めることは難しい。TPI NEXT によるテストプロセス改善を進める際に陥りやすい2つ問題を示す。

1 つ目は、現状のテストプロセスを共通理解していないため、改善策の検討が難しい、という問題である。TPI NEXT は、改善策の検討において、現状のテストプロセスの可視化には言及していないため、TPI NEXT の枠組みのみでは、現状の共通

理解ができずに、改善策の検討が難しい。

2 つ目は、改善項目が多く、優先順位の判断が難しい、という問題である。TPI NEXT が改善の指針として提供するクラスタセットにより大まかな改善スコープを特定できるが、詳細な改善の優先度は現場チームの状況により判断が必要である。そのため、同じスコープ内の改善項目が多い場合、優先順位の判断が難しい。

3. 問題解決のための手法の提案

2章で述べた2つの問題に対して、2つの手法を提案する。

1 つ目は、現状のテストプロセスを可視化するためのPFDの活用である。PFD により現状テストプロセスを可視化することで、チームが現状のテストプロセスに対して共通理解し、改善策の検討を行えるようになる。また、可視化する対象は、チェックポイントを基準にプロセス表現しやすいかどうかで判断する。このため、各チェックポイントがプロセス表現できるかを整理し、その結果をPFD 化の指針として提供する。

2 つ目は、一定の指針による改善項目の絞り込みである。各チームメンバーが TPI NEXT によるアセスメントを行い、その結果のばらつきを指針として改善項目を絞り込むことで、優先順位の判断ができるようになる。チーム間で評価結果がばらついたチェックポイントは、プロセスが暗黙的であると考えられ、これらは可視化することで作業や成果物の抜け漏れの防止などの改善が見込めるため、優先的な改善対象とする。

参考文献

- [1] Vries,G. D. et al., TPI Next ® :Business Driven TestProcess Improvement, UTN Publishers. (藪田ほか(翻訳), TPI NEXT®ビジネス主導のテストプロセス改善, 株式会社トリフォリオ)
- [2] 清水吉男, PFD(Process Flow Diagram)の書き方, <http://soft-koha-hp.la.coocan.jp/process/PFDform3.pdf>
- [3] 河野ほか, パネルディスカッション:普及が始まったテストプロセス改善技術導入・実践着手のために考えるべきこと, ソフトウェアテストシンポジウム 2017 東京, 2017